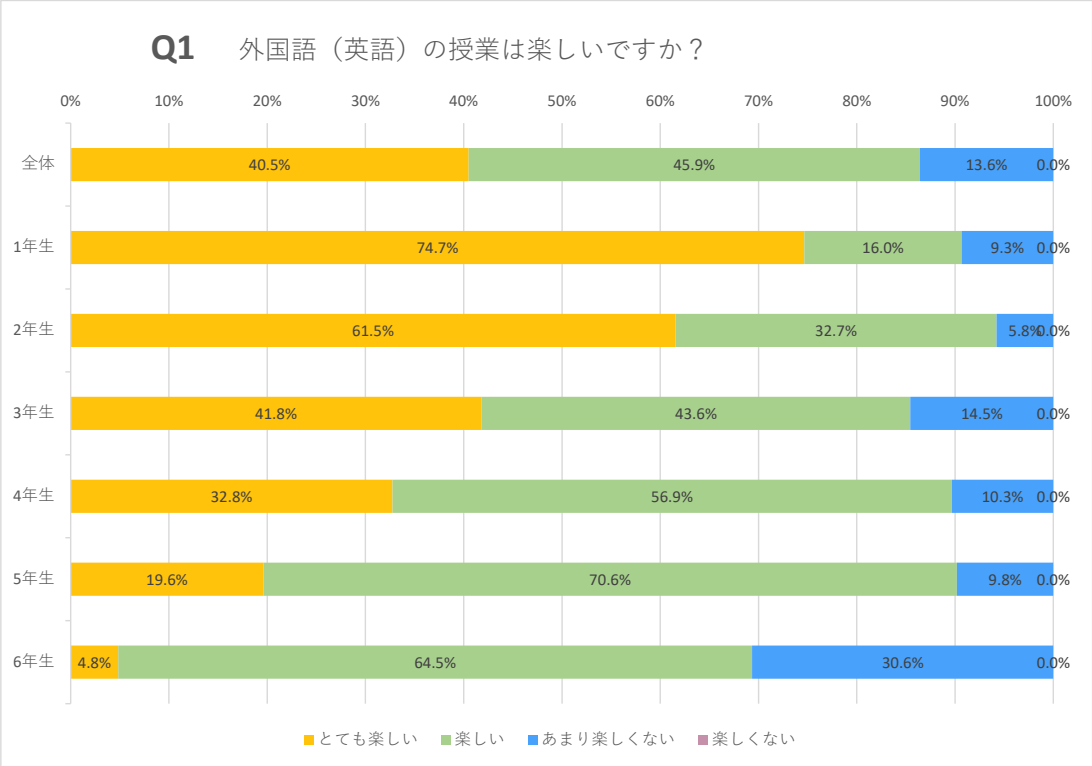
外国語（英語）の授業に関する児童用アンケート調査結果



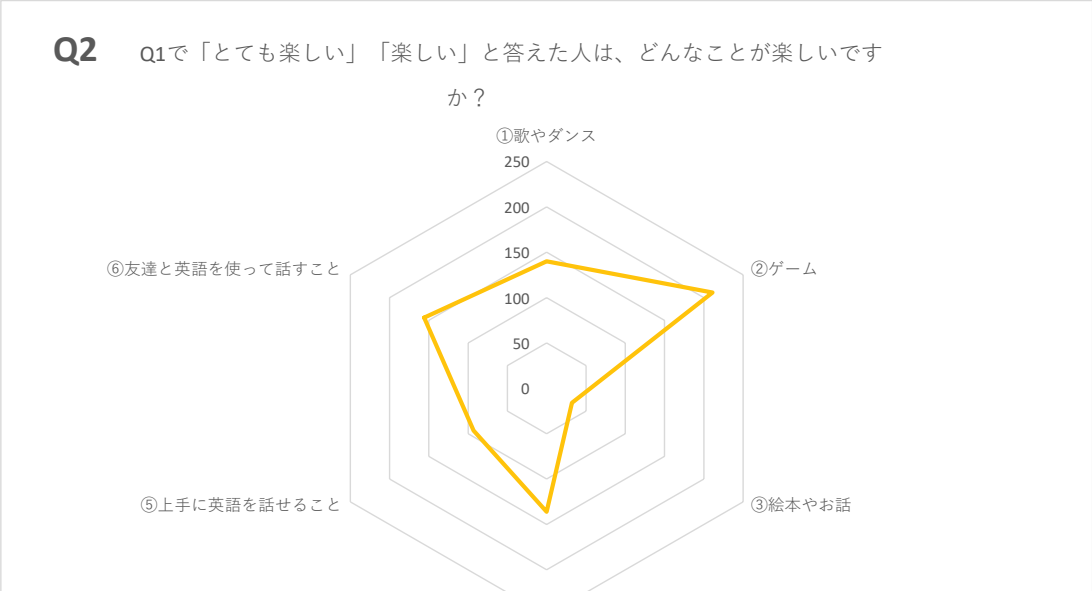
Q1集計について

全体を通して、「とても楽しい」「楽しい」が86％以上であり、積極的に授業に参加できている児童が多いと考えられる。また、「楽しくない」と答えた児童はおらず、「あまり楽しくない」と答えた約14％の児童に対する授業でのサポートが必要である。

学年別に見ると、１・２年生は「とても楽しい」が多いが、学年が上がるにつれて減少している。学習内容がより高度になるにつれて、「楽しい」だけでなく「学習して分かる」等のとらえ方に変化しているのではないかと考えられる。それでも「楽しい」を加えると１～５年生は90％前後あるので、この気持ちを保ちながら学習に取り組めるように授業展開を工夫していきたい。

ただ、６年生は約30％が「あまり楽しくない」と答えていた。学習内容の積み重ねによって「できる」「できない」や「分かる」「分からない」が明確になり、「できない」や「分からない」が「楽しくない」につながっているのではないかと考える。

個々のつまずきを反復練習で補ったり、既習内容の補充学習を行ったりすることで、「分かった」や「できた」と感じられるようにしていきたい。



Q2集計について

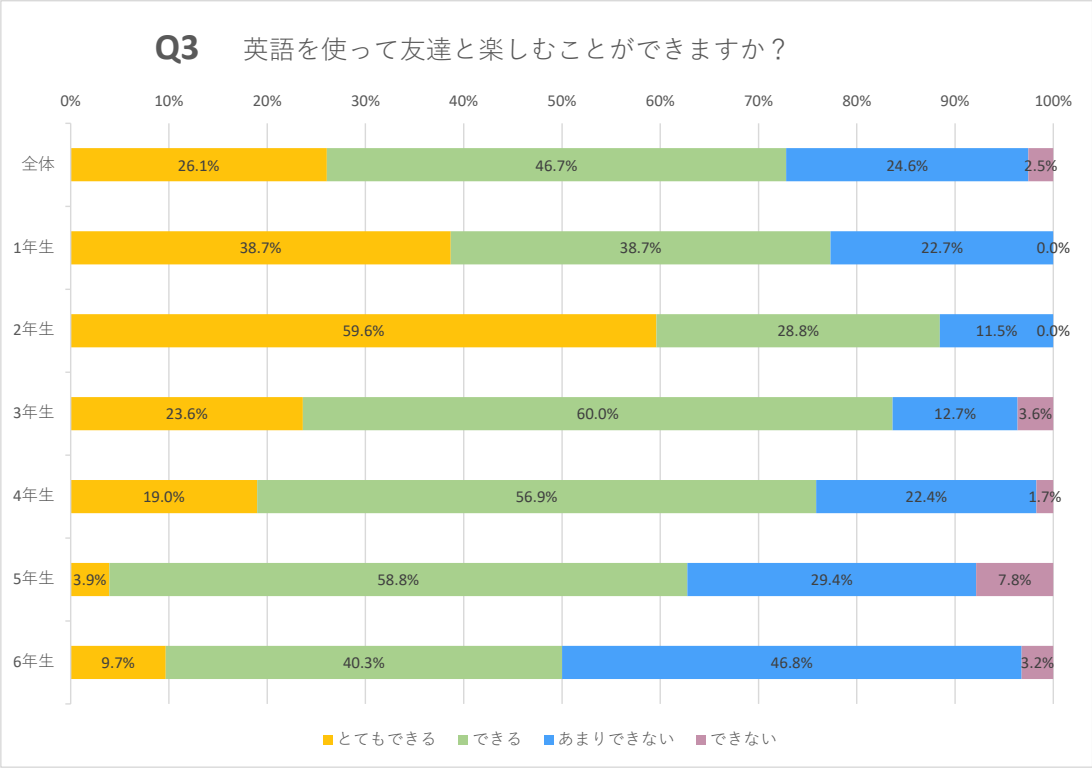
「とても楽しい」「楽しい」と答えた中で、一番多かったのは「ゲーム」で、3分の2以上の児童が楽しさを感じている。また、どの学年でも楽しいと感じている児童が多く、学習意欲の保持や向上に効果的であるといえる。

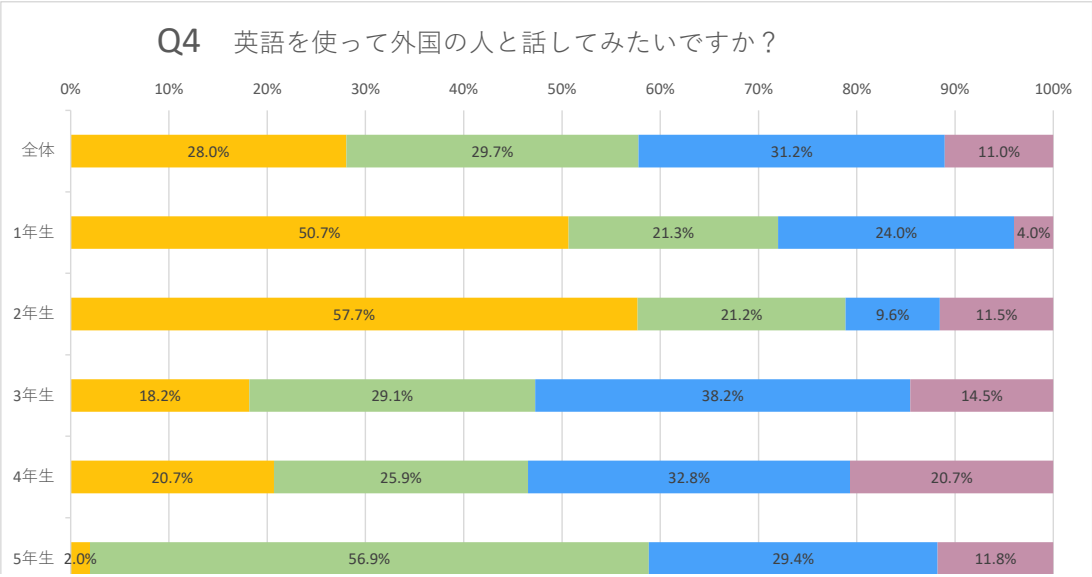
次に多いのが「友だちと英語を使って話すこと」で半数以上を占めている。表現することの楽しさを感じ取って学習できている児童が多いので、英語を話すことの楽しさが更に感じられるように、対話活動を多く取入れていきたい。

「歌やダンス」と「新しい英語を覚えること」は主に低学年が楽しいと感じている児童が多く、「上手に英語を話せること」はどの学年も楽しいと感じている児童が多い。発達段階に応じた授業展開の工夫が必要である。

「絵本やお話」は、他の活動に比べて活動の頻度が少ないため、楽しいと感じている児童は少なかったと考えられる。「絵本やお

④新しい英語を覚えること





話」を扱った学習の機会を少しでも増やして、英語の楽しさを多角的に感じられるようにしたい。

Q3集計について

全体では、「とてもできる」「できる」合わせて約７３％で、4分の3の児童が友だちと英語を使って楽しむことができている。

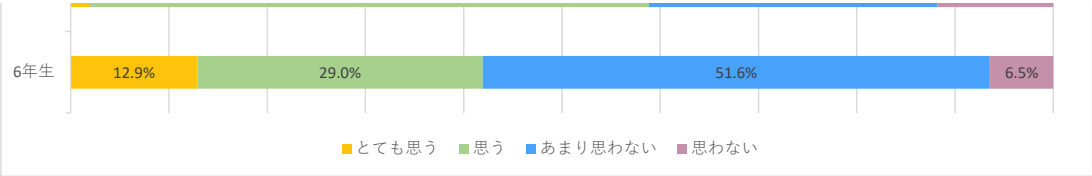
ただし、高学年になるにつれて、「あまりできない」「できない」の割合が多くなっている。学習内容が高度になるにつれて、扱う文法や単語が増えることで、未定着の部分があり、「できない」と感じてしまう部分があると思われる。また、英語に限ったことでなく、他教科でも高学年になるにつれて表現することに恥ずかしさを感じる児童が増えていると感じられる。

対話活動の充実を図ることで、表現することに慣れさせていきたい。また、英語を使って友だちと通じ合えた等、成功体験を積み重ねて自信をつけていきたい。そして、特に高学年では、既習内容の補充学習・反復練習等に力を入れ、学習内容の定着を図っていきたい。

Q4集計について

全体としては「とても思う」「思う」を合わせて58％であり、半数以上が「話してみたい」という思いをもっていた。ただ、学年差が大きく、３・４・６年生においては半数以上が「あまり思わない」「思わない」と答えており、原因を把握し、児童に「話してみたい」と思えるような授業改善に努めていきたい。

また、授業の内容が実際の生活に生かせると児童自身が感じられる等、児童にとって必要感のある活動にしていく



〇保護者・学校関係者より

・自分（保護者）が子どもの頃に習った内容より、今の方が内容が難しくなっていると感じる。
・学校の授業以外に英会話教室にも通っていて、授業中に英語を話すことを楽しんでいる。
などの声があった。

ことも大切である。